

平成29年度シラバス（船舶運用 B） 学番78 新潟県立海洋高等学校

教科(科目)	水産(船舶運用)	単位数	3単位(のうち1単位分)	学年(コース)	2学年(海洋技術)コース
使用教科書	文部科学省著作 海文堂出版株式会社発行『船舶運用』				
副教材等	なし				

### 1 学習目標

船舶を安全かつ適切に運用するために必要な知識と技術を習得させ、実際に漁業生産など海上業務に活用する能力と態度を育てる。

### 2 指導の重点

気象情報を船舶の安全運行に活用する知識と技術を習得させます。  
 2学期に行われる30日航海実習において、適切な当直業務を行うための基礎的な知識を習得させるため、  
 ①気象、海象観測の基本的な知識を理解させ、観測方法について習得させます。  
 ②航海日誌に適切な記事を筆記体により記入できる能力を育てます。

### 3 学習計画

月	単元名	教材	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
4	○海上気象	○天気図の見方	○天気図の記号の意味と表し方について理解する。	6	○授業への取組 ○提出物の内容および期限順守
5		○海上気象の基礎	○大気組成と構造について理解する。		
	(1学期中間考査)		○気象要素及び気象観測の基本的な知識を理解させ、観測結果を航海日誌に記入できるように習得する。	7	○定期考査 ○確認テスト ○自己評価
6		○気団と前線	○日本付近の気団、前線の種類と特徴について理解する。		
	(1学期期末考査)		○高気圧と低気圧	10	
7			○高気圧の種類と特徴および低気圧の一般的性質について理解する。		
9	(30日乗船実習)			10	
10	○海上気象	○日本近海の気圧配置と気象	○等圧線の型および日本付近の気圧配置の型式(天気図型)と特徴についての知識を身に付け、日本付近の天気について理解する。		
11			○台風の発生と時期、進路について理解する。	9	
12	(2学期期末考査)				
1	○海上気象	○天気図の見方	○天気図による天気の予測ができるように、気象・海象の情報を収集し、今後の気象変化を判断する知識と技術を習得する。船舶への気象情報について理解する。	9	
2					
3	(学年末考査)				

計 32 時間(55分授業)

#### 4 課題・提出物等

○各單元ごとに課題等の提出を指示することがあります。

#### 5 評価規準と評価方法

評価は次の4観点から行います。			
関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
○気象・海象について関心を持ち、学習を通して意欲的に知ろうとしている。	○気象・海象、船舶の状態などから、的確な操船方法を判断することでき、今後の変化が予測することができる。	○気象・海象観測が確実にできる。 ○天気図を用いた天気予報など気象情報の活用について、基礎的な技術を習得している。	○気象の基礎的な事項とともに、我が国近海の各季節における気圧配置の特徴などを理解している。
以上の観点を踏まえ、 ○授業への取組状況(授業態度，出席状況，発表，学習活動への参加状況など) ○課題等の提出物（内容及び期限の遵守） ○定期考査 ○確認テスト ○自己評価 などから，総合的に判断します。			

#### 6 担当者からの一言

気象は船舶の運航に限らず、我々の仕事や生活に密接にかかわる現象です。気象と海象の観測、天気図の見方について理解し、天気図を用いて天気予報ができる技術を習得しましょう。  
五級海技士から四級海技士の資格を取得する上で必要な事項も学びます。船舶の運航上重要なものです。

(担当：久保田 和平)